



—北アフリカ地域ニュース—

アルジェリア：ヘリル・エネルギー・鉱業大臣の会見（11月9日付エル・ムジャヒド紙）

ヘリル・エネルギー・鉱業大臣は11月8日に記者会見を行い、下記の様に発言した（概要）。

1. 2008年の原油市場

2008年の原油市況の特徴は、高い原油価格と商業的ストックの適正水準である。又、原油価格は以前に較べて比較的高かったが、需要の減退をもたらさなかった。金融危機は先進国を景気後退局面に導き、原油価格の下落は、このような状況の結果である。11月4日時点の2008年の平均原油価格はバーレル当たり103.56ドル（2007年は65ドル）で、同年のアルジェリアの原油価格は108.28ドル（2007年は71.13ドル）である。

2. 生産調整の必要性

生産調整が必要なことは、原油価格の下落で明らかになった。OPECは反撃することを期待しているわけではなく、常に市場の安定のために活動している。このような意図は9月9日及び10月24日（OPEC臨時総会）において確認された。12月7日にアルジェリアで開催されるOPEC臨時総会では、（原油市場に関する）状況の評価が行われるであろう。その日になれば、どのような追加措置をとるのか、或いは前回の総会での（減産の）決定が加盟各国によって実行されているかが明らかになるであろう。次回の会合で、市場の状況からみて必要があれば、減産が決定されるのは明らかである。

3. 原油価格下落のアルジェリアへの影響

原油価格が低ければ、収入も低くなる。アルジェリアは先月、7.1万B/Dの減産を決定した。その結果、年間20億ドルの減収となる。しかし、アルジェリアには大きな準備金があり、投資も続いていけよう。投資に関して中断は予想していない。危機は1年以上は続かないであろう。アルジェリアはOPECの中で原油市場の安定を訴え続けていく。アルジェリアは平均原油価格が50ドルでも機能する。もし、原油価格が満足できない水準に止まったならば、我々は投資計画を分割することが出来るし、必要ならば外国の融資を求める可能性もある。原油価格が50ドルで安定したとしても、アルジェリアは大きな問題は生じないであろう。ソネルガスの投資に関して、アルジェリアは同投資の資金を持っており、必要な場合いには外国の融資を求めることも出来る。

4. ガス生産国フォーラム

石油市場と同様の規則でコントロール可能な国際ガス市場設立の可能性は、幾つかの要因にかかっている。規則というのは現時点では存在しないが、とりわけ操業者が生産量を減らすために行動したり、ガス市場の現実を反映する形で価格の再交渉を可能にするものである。11月18日にモスクワでガス生産国フォーラムの閣僚会合が予定されていたが、延期されている。